

事務事業評価

令和 5 年度

担当課 しまばら観光課

基本事項	事務事業名	鯉の泳ぐまち魅力アップ事業					整理番号	1705
	根拠法令等	「みんなで磨き！観光まちづくり」推進事業補助金（一部）			実施を義務付ける規定		○あり ●なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	目標 基本目標3 賑わいと活力を興すまちづくり	予算科目	7 款 1 項 3 目	●継続 ○新規			
	施策 施策3-4 訪れてみたい、魅力のあるまち	事業区分	助成・育成					
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	鯉の泳ぐまち地区は市内の中心地に位置し、昔ながらのアーケード商店街の近くにある。しかし、アーケード商店街は人口減少や車社会化等の影響による歩行者(来客者)の減少が課題となっている。鯉の泳ぐまち地区の代表的な建物である「しまばら湧水館(国登録有形文化財)」や「四明荘(国登録有形文化財)」、観光交流センター清流亭を中心に賑わいを創出し、商店街への人の流れを作り出す必要がある。					計画期間	始期 平成 26 年度から 終期 令和 年度まで
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	鯉の泳ぐまち地区の代表的な建物「しまばら湧水館(国登録有形文化財:旧三村家)」を活用し、古民家カフェ事業を行うことで文化庁の100年フードにも選ばれた「島原名物かんざらし」や現代風のアレンジメニューを観光客に提供し、そこでしかできない地元特産品の手作り体験ができることで付加価値を付け、館内でゆっくりとした時間を過ごしてもらい滞在時間の延長と消費額拡大を図る。また、島原の主要観光施設(島原城と鯉の泳ぐまち地区)の中間地点であるアーケード内にオープンした水脈mio(旧堀部邸:古民家宿泊・コワーキング・喫茶など)と連携することにより、島原城～水脈mio～アーケード街～鯉の泳ぐまち地区の動線ができ、さらなる観光客の周遊促進を図る。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	○古民家カフェの運営・磨き上げ 市民と観光客が交流し憩える場としてより多くの機会を創出するため、しまばら湧水館の魅力を活用したカフェ事業を実施し、かんざらしを主体にしたメニューのほか、地元のフルーツを使ったフルーツサンドやパフェなどのデザートメニューの開発 ○郷土料理「かんざらし」の手作り体験 湧水と関りが深く、島原の郷土料理でもある「かんざらし」の手作り体験を行い、地域全体でかんざらし文化を盛り上げるため、市内かんざらし提供店へ100年フード認定ロゴ入りの幟やステッカーを提供し「かんざらしの街」としての一体感を醸成し広くPRする ○観光案内業務 湧水を活用した観光施設の案内により、鯉の泳ぐまちの更なる魅力を伝え、交流人口の増加を図る ○地場産品等の紹介や販売 島原湧水に関連した地元限定の商品等の紹介と販売を行いPRする						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)	単位	3年度	4年度	5年度		
	①しまばら湧水館入館者	目標	人	15,000	10,000	17,500		
		実績	人	6,900	13,187			
		達成率	%	46.0	131.9	0.0		
	②喫茶事業売上(店内・テイクアウト)	目標	万円	350	300	800		
		実績	万円	258	581			
		達成率	%	73.7	193.7	0.0		
	活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①イベントの企画・運営	目標	企画	2	2	4	
			実績	企画	2	2		
	②SNS情報発信、TV・雑誌等への掲載	目標	件	-	60	130		
		実績	件	-	54			
事業費等の推移	年度		31年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		9,083	9,000	7,170	8,225	3,000	4,000
	財源内訳	国県支出金	4,500	4,500	4,351	4,010	2,250	2,000
		地方債						
		その他						
		一般財源	4,583	4,500	2,819	4,215	750	2,000
	②従事職員給与費 b1×b2		452	454	449	440	445	445
	従事職員数(人) b1		0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	職員平均人件費 b2		7,530	7,563	7,482	7,331	7,418	7,418
事業費合計 ①+②		9,535	9,454	7,619	8,665	3,445	4,445	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている	判定
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	これまで実施してきた事業内容の検証・見直しを行い、島原の魅力を発信する素材として必要性に応じて継続して実施している。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適切しているか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 現在、(株)島原観光ビューローへの委託事業として実施しているが、将来的には事業収入による運営で事業の引継ぎも可能と想定される。	B
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 当市への観光誘客並びに滞在時間の延長、観光消費額の増加を目的し、新たに古民家カフェ事業に取り組んでいる。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 令和3年7月から新たに古民家カフェ事業に取り組んでおり、鯉の泳ぐまち地区が観光スポットとしてさらに認知され、施設間の連携により観光客の滞在時間の延長や観光消費額の増加に寄与している。	A
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 市内の観光宿泊施設等に本事業及びしまばらめぐりんチケット(周遊割引券)に参画してもらい、観光客に割引が受けられるサービスを提供することで、観光客の利便性や認知度の向上を図っている。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 施設間の連携により観光客の滞在時間の延長や観光消費額の増加が図られ、さらに近隣の大型ショッピングセンターの開業により人流の拡大も見込まれ、相乗効果も期待できる。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 費用対効果を検証するとともに、(株)島原観光ビューローと連携して事業に取り組んでいる。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 鯉の泳ぐまち地区等の施設間の連携により事業実施を行っているが、改善できることがないか常に検証を行う。	B
	⑩市民参加、市民協力が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 観光客の増加、滞在時間の延長が地域経済の活性化につながるため、より多くの観光客の来訪を誘引することに引き続き努める。また、新メニューの開発や単価設定については、状況を見ながら判断していく。	A
判定評価平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.60

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	地方創生推進交付金を活用した事業であり、観光客の求める情報提供や心に響くおもてなしにより観光客の満足度を高めるとともに、新たな事業展開して古民家カフェ事業に取り組みなど観光の充実感を高めるため、積極的に取り組んでいる。 また、施設間の連携をはじめ、しまばらめぐりんチケット(周遊割引券)の参画促進により割引サービスの提供し、情報発信を行うことで観光客の利便性・認知度の向上を図っている。 さらに、新メニューを様々な視点から取り入れ、ヤング層(若者)や子育て世代など新たなターゲットに向けた商品開発にも取り組んでいる。 ただし、将来的には自走を目指しており、交付金の活用期間(令和7年度)後の公費負担を見直す方針である。
	今後の課題及び改善策、見直しの状況 (実施上の課題等) 事業内容の改善などについては、状況を判断し常に行っていく。 観光客の滞在時間の延長や観光消費額の増加の手段として、新メニューの開発などに取り組む。 令和8年度の以降の自走を目指す。		
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。			

【2次評価】

総合判定	B2見直しのうえで実施 ⇒ 事業規模を縮小
備考	事業改善を適宜行うことで来客数の一定数確保できており、観光客の市内周遊に寄与していると思われる。自走の実現に向けて島原観光ビューローと課題の整理や対策の検討を行い、段階的に支援縮小をお願いしたい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	1,000 (千円)